

静岡文化情報

(財) 静岡市文化振興財団

まちがど

VOL. 34

MACHI-KADO



丸子・宇津ノ谷

丸子・宇津ノ谷

丸子は江戸から数えて20番目の宿場町。古くは「鞠子」とも書き、東海道で最小の宿場町だったと伝えられる。現在でも旧道には、格子造りの民家や一里塚など、宿場町の面影が残っている。

宇津ノ谷は、難所として知られた峠を前に旅人が心身を休める間の宿であった。かつての難所も今ではハイキングコースとなり、健康のため、歴史・文学に思いをはせるため、様々な人が歩く道となっている。



大鈺川

おおだたら
大鈺
〈P08-09〉

いずみがや
泉ヶ谷
〈P06-07〉

丸子薬科
トンネル

きたまりこ
北丸子

金鱗彫刻工芸

丁子屋

まりこ
丸子

さわたり
佐渡

てごしはら
手越原

丸子川

二軒家

あかめがや
赤目ヶ谷

うつのや
宇津ノ谷
〈P10-11〉

昭和のトンネル

平成のトンネル

明治のトンネル

大正のトンネル

丸子名物

mariko-meibutsu

丁子屋

創業は慶長元年。400年以上の歴史があり、歌川広重が描いた(右図)ことでも知られる老舗のどろ汁屋さん。東海道線開通による旅人の減少や、自然薯の枯渇などの困難を乗り越え、この地で丸子の歴史を見守ってきた。現在でも名物のどろ汁が味わえるのはもちろん、東海道の歴史に触れられる資料室も備えている。13代目主人の柴山さんは「古くからの食文化を、良い形で後世に伝える社会的責任を感じる。その使命を果たすため、日々努力している」と語る。今年7月にはメニューを一新するなど、伝統を守りつつ時代に合わせた変革に挑んでいる。



昭和30年 海野幸正氏撮影
丁子屋前の様子



天保4年(1833年) 歌川広重作
「東海道五十三次 丸子 名物茶店」

丸子名物

mariko-meibutsu

金鱗彫刻工芸

二年前前に羽島から丸子に移転してきた家具工房。ナラ、クリ、クルミをメインに国内各地の上質な木材を使用しており、製造工程もすべて手作りのこだわり。工房に隣接する店舗は清々しい木の香りがふわあっと漂う心地よい空間で、テーブルやイス、ベッドといった定番の家具はもちろんのこと、フォトフレームや本立て、小物入れといった雑貨も数多く並んでおり、木それぞれの特性を活かしたデザインや彫刻からは、一点一点丹精込めて製作している造り手の温もりが伝わってくる。また、このような展示販売品以外にもオーダーメイドでの製作もおこなっている。二代目ご主人は「ご要望どおりの家具を造るのは簡単なことではないが、お渡しする際に使い手の笑顔が見られることが何よりも嬉しい」と語る。ここに来れば自分に合った理想的な家具に出会えるだろう。



丸子地区には金鱗の他にも多くの家具製作所が存在する。二代目ご主人は「木工芸のまち」として発展していけばと話す。



文学の里

東海道の町場として旅人が行き交った丸子・宇津ノ谷は、多くの文人たちによって歌や句に詠まれてきた。現在でも丸子・宇津ノ谷地区には歌碑や記念碑が点在しており、文人たちの足跡に触れることができる。

8. 十団子の句碑

十団子の伝説が伝わる慶龍寺の境内には、十団子を詠んだ森川許六の句碑がある。他にも小林一茶、黒田如水などが十団子の句を残している。



宇津ノ谷



宇津ノ谷峠の旧跡

峠の地蔵堂跡

かつて峠越えの旅人が無事を祈った、峠の地蔵堂が建っていた場所。今では石垣と供養塔のみが残されている。歌舞伎『萬紅葉宇津ノ谷峠』では、この場所で盲目の文弥が殺されてしまう。今でこそきれいなハイキングコースだが、当時はそのような場面に描かれるほど心細い場所だったのだろう。



蘿徑記碑

旧東街道の岡部町側に坂下地蔵堂がある。ぐるりとお堂を回り込んだ所に立っているのが「蘿徑記碑」。「蘿」はつた、「徑」は小道の事。文政13年(1830)に駿府代官の羽倉外記が、すでに廃道となっていた萬の細道が忘れ去られることを憂いて建立した石碑である。



雁山の墓

草に囲まれた小さな墓碑は、江戸時代の俳人雁山の墓である。と言っても、ここに雁山が葬られているわけではない。駿河の文人たちが、雁山が音信不通になった際、旅先で没したものだと思い込んでこの場所に墓碑を建てたのだと伝えられている。実際には雁山はその後『有渡日記』『駿河百韻』等を著し、約40年後に甲府で没している。



泉ヶ谷

大鈿川

大鈿

丸子薬科トンネル

北丸子

丸子

佐渡

手越原

丸子川

二軒家

赤目ヶ谷

はるか昔のうさぎ

4. 細川幽斉の歌碑

細川幽斎は戦国時代の武将にして歌人。小田原を攻めるために丸子川を渡った時の情景を詠んだとされる歌が、丸子橋のたもとの碑に刻まれている。



ありわらのなりひら

6. 在原業平の歌碑

萬の細道の峠に建っている歌碑。この歌が収録された『伊勢物語』によって、宇津ノ谷峠は広く知られるようになったと言われる。



7. つたの細道公園

萬の細道の岡部町側にある親水公園。園内には平安時代から現代までの文人たち9人が宇津ノ谷峠について詠んだ和歌・俳句などが掲示されている。



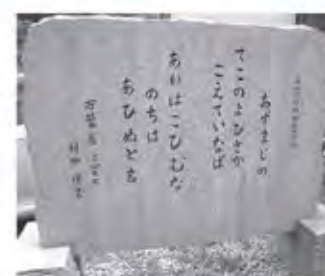
5. 柴屋寺の歌碑

門前には今川氏親と宗長の連歌が、入口横には吐月峰で句会の講師をしていた本宮鼎三氏の句が掲げられている。他にも、敷地内には狂歌の歌碑がふたつある。



2. 手児の呼び坂万葉歌碑

丸子金属工業団地の奥に、手越へと通じる山道がある。ここは万葉集に「手児の呼び坂」と歌われた坂で、登り口には歌碑があり、坂の上にも歌を記した立て札と記念碑が建てられている。



1. 佐渡の万葉歌碑

佐渡公民館前の碑には、万葉集に収められた愛唱歌が刻まれている。昭和52年に地名の改称があり、「佐渡」という地名が地図上から消えた事を惜しんで建てられた。



3. 丁子屋の歌碑

（十返舎一九、松尾芭蕉）

丁子屋の前にはとろろ汁に関する碑がふたつある。ひとつは松尾芭蕉による俳句、もうひとつは十返舎一九が『東海道中膝栗毛』の中で詠んだ狂歌である。



…歌碑



文学の里

泉ヶ谷

大鈿

宇津ノ谷

特集 里のいきなり

Information

文学の里

泉ヶ谷

大鈿

宇津ノ谷

特集 里のいきなり

Information

泉ヶ谷

教昌院●

たなひくや
千里もこの春霞 ~今川氏親~

ほかもたつねし 梅匂ふかけ
~宗長~

——吐月峰柴屋寺の歌碑より



駿府匠宿

静岡ならではの生活文化を、地場産業を通じて体験できる施設。伝統工芸の歴史を遊びながら学べる「駿府工芸館」や、地場産品の展示ギャラリーなどがあるが、なんといってもメインは「体験工房」。この「体験工房」では、インストラクター指導のもと、自分だけの「陶芸」「漆器」「和染」「竹千筋細工」などの伝統工芸品の創作ができる。一番人気は陶芸で、休日には事前予約が必要なほど。趣味の入口として気軽に体験してみる人から、カルチャー教室で高度な技術を習得する人まで、利用の仕方は様々だ。また、毎年夏休みには、普段では体験できないイベントや展示会が数多く開催される。家族揃って体験しにいくのもおもしろい。



唐楽舎

雑貨の卸し会社が、自社のアンテナショップとして6年前に開いた雑貨店。店内には世界中の雑貨や織物、編物がところ狭しと並び、無国籍な雰囲気を漂わせている。オーナーの永井さんが海外の路上市場等で調達する品々であるため、中には一点物の貴重な雑貨も存在する。日本ではお目に掛かれない珍しい品ばかりで、お客さんからは楽しい買い物ができると評判である。



村本養蜂場

ごく普通の民家の玄関を開けると、はちみつとひょうたんがズラリと並ぶ。どちらもご主人の村本さんが自身で栽培から加工まで行ったもの。蜜蜂を飼い始めたのは2代前のご主人から。戦後の甘いものがない時代に、当時栽培が盛んだったみかんの花を利用して始めたのがきっかけだという。ただ買い物をして帰るだけでなく、ゆっくりと癒されたいという村本さん。物を売ったら終わりではなく、「また来てね」と温かい言葉をかけてくれる。



天柱山吐月峰柴屋寺



今からおおよそ500年前の1504年、今川家お抱えの連歌師でもあった宗長が建立し余生を送った寺院。宗長自身が造った庭園は、国の史跡及び名勝に指定されている。樹石の巧みな配置と四季折々の花に加え、南の丸子富士、北西の天柱山の遠景を取り込んだ「借景庭園」の壮大な眺めも見人を楽しませてくれる。また、月見の名所としても知られており、毎年秋には観月会が開かれている。

クラフトコンサート

農家の空き家を改装して15年前にオープンした家具屋さん。洗練された外観でありながら、丸子の風情に溶け込んでいる。展示品は、日本家屋に合った家具を探し求めるうちにたどり着いた北欧家具が中心。これが、畳敷きの部屋と調和しているから不思議である。店主の田島さんは、服や靴を試着するように、家具も買

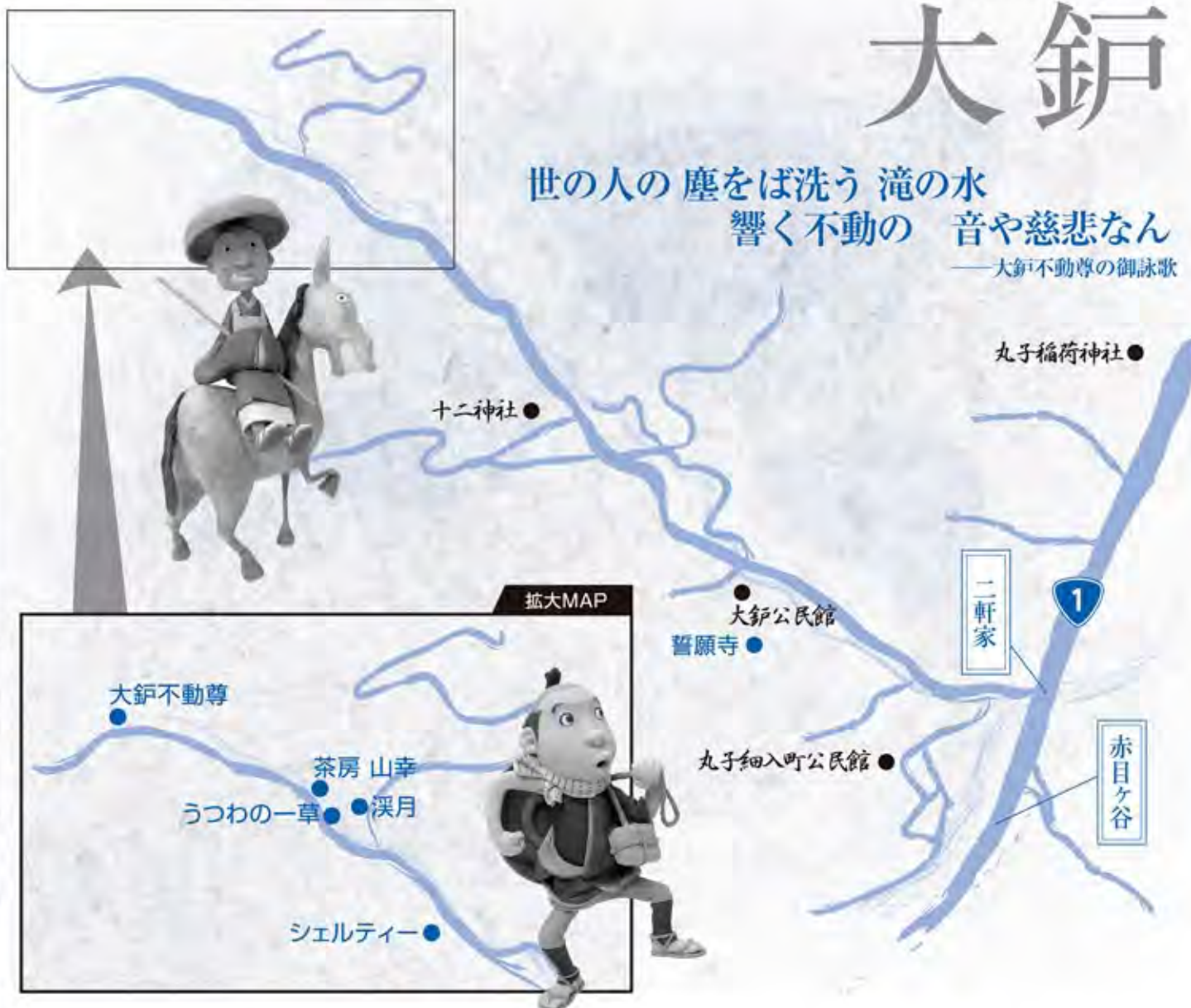


う前に試してみたいと語る。身体に馴染む木の家具は、経年変化によって味わいが深くなっていくのも楽しめるそうだ。



大鉦

世の人の 塵をば洗う 滝の水
響く不動の 音や慈悲なん
——大鉦不動尊の御詠歌



鉦とは鍛冶に用いた風を送る器具。かつてこの地区に鍛冶屋が多かったことから、このような地名となったと言われる。現在では鍛冶屋の姿はなく、山と畑に囲まれたのどかな地域となっている。

大鉦不動尊

滝の上に建てられた小さなお堂に、愛宕不動が祀られている。もともとは災難を防ぐのが御利益とされていたが、今では健康祈願や合格祈願など様々な願いをかけた人々が訪れる。お堂へ向かう石段の途中に並ぶ大小様々の地蔵は、不動尊を訪れた人々が各々の願いを込めて置いて行ったものだとのこと。お堂の前には小さな滝があり、うっそうと繁る木々と相まって清涼な景色を作っている。この川の水にはイボ取りの効能があると言われており、これを目当てに訪れる人も多い。かつては水を飲んでも御利益があると言われていたが、現在、水を飲むのは禁止されているので注意が必要である。



誓願寺



源頼朝によって建立されたと伝えられている寺院。今川氏と武田氏の戦いによって一度は焼失したが、武田の家臣穴山梅雪によって再建された。裏手の墓地には豊臣の家臣であった、片桐且元夫妻の墓がある。且元は坪内逍遙の歌舞伎『桐一葉』の主人公で、忠臣として描かれた人物。秀吉の死後、勢いを増す徳川との板挟みに苦しんだ。駿府城を訪れる際にしばしば誓願寺を訪れており、その縁で誓願寺に葬られたという。

モリアオガエル

寺の裏手にあるふたつの池はモリアオガエルの産卵の名所。5月下旬から7月上旬の繁殖シーズンには、池にかかる木の枝に産み付けられた、泡状の卵を見ることができる。

うつわの一草

2000年に現在の場所で営業を始めた器のお店。味気ない量産品ではなく、大事にしまいこむお宝でもない、日ごろ使える「ちょっとだけぜいたく」な器を扱っている。茶碗、皿、花瓶など店主の渡辺さんが窯元から直接買い付けたこだわりの品々は、主婦のみならず、料理好きの男性からも支持を集めている。屋号の「一草」には、緑の多い丸子の美しさと、欲張らずに長く続けられるようにとの渡辺さんの願いが込められている。店内には季節ごと発行の「一草だより」が置かれており、文面から渡辺さんの柔らかな人柄が伝わってくる。



うにとの渡辺さんの願いが込められている。店内には季節ごと発行の「一草だより」が置かれており、文面から渡辺さんの柔らかな人柄が伝わってくる。

茶房 山幸

山あいに住める幸せを思い「山幸」と名付けた茶房。この地区では定番のとろろ汁に加え、地元で採れた季節の野菜を味わえるほか、屋外では炭火焼も楽しめる。お客さんには静かにゆっくり時間をすごして欲しいと語る店主の近藤さん。その言葉の通り、近藤さん手作りのランプの温かい灯りに照らされ、近くを流れる清流のせせらぎが聞こえてくるのんびりとした空間だ。



シェルティー



今年5月にオープンしたばかりのペットショップ。自然に囲まれた環境の中、たくさんの犬や猫が迎えてくれる。喫茶スペースで、自分のペットと一緒にお茶を楽しむのも嬉しい。店主の坂野さんは、愛犬の出産に立ち会った際の感動から、プリーディングの世界に飛び込んだ。新しい家族が増える喜びをより多くの人に感じて欲しいと考え、ゆくゆくはお店でペットと遊べるドッグランや、犬猫の福祉施設訪問も構想中である。



渓月



落ち着いた雰囲気、庭園を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごせるとろろ料理のお店。その雰囲気に魅了され、長時間くつろいでいられるお客様もいるようだ。「一品一品丁寧に、お客様がまた来てくださるよう心を込めている」と語るご主人の料理は、見た目が鮮やかなことに加え、山の香りがほんのり香り、きめこまかな仕事ぶりと優しさが垣間見られる。また、カップルや友達同士はもちろんのこと、広々とした店内であるため、家族連れや各種宴会など、さまざまなシチュエーションに対応してくれる。心のこもったおもてなしがうれしいお店だ。



宇津ノ谷

十団子も
小粒になりぬ 秋の風
～森川許六～
——慶龍寺の句碑より



かつては丸子と岡部の間の宿であり、茶屋が建ち並び、旅人が行き交っていた地域。今も休日には旧東海道ハイキングコースに向かう人々で賑わう。現在は農業を営む家庭が多いが、昔ながらの木造家屋に屋号看板のかけられた街並みは、往時を彷彿とさせる。



御羽織屋

かつて茶屋を営んでいた民家。1590年に当時の主人が、小田原城侵攻の際に立ち寄った豊臣秀吉公に気に入られ、陣羽織を拝領したことから「御羽織屋」と呼ばれるようになった。

陣羽織に残る模様とも窺える黒ずみは、これを目当てに訪れた多くの大名が触れた名残である。また、そうして立ち寄った大名から与えられた貴重品も数多く展示されている。



家主の石川さんは、陣羽織を拝観する際には由来を説明してくれる。当時の情景が目に浮かぶような、石川さんの見事な語り口をぜひ聞いてみたい。



きしがみ



旧東海道の坂道の上にある十割そばの店。そば粉は、北海道各地や青森、安曇野産から、その時期に一番美味しいものを選んで。そばだけでなく、自家製一品料理も充実しており、山々を眺めながらお酒も楽しめる。趣味でそばを食べ歩くうちに自分でもそばを打つようになった店主の岸上さんは、ある時十割そばに出会い衝撃を受け、その奥の深さにはまりこんでいった。開店から8年が過ぎた今でも「常にアンテナを高くして、ヒントが通り過ぎないように」と、新たな挑戦を心がけている。



ななみ



釜めし、焼き鳥、そばが中心のお食事処。大きく作られた窓からは四季折々の自然が見え、夜にはライトアップされた景色を楽しむことができる。店内でひときわ目を引くのは、1.5 mもある相良風。骨組から風絵まですべて店主の名波さんの手作りだ。他にもお品書きやテーブルなどの内装はほとんど手作り。料理や工芸は、これまで仕事や家庭を通じて知り合った人々から教わったという。「きっかけが大事。これも縁だね」と語る名波さん。初めてのお客さんも、気さくに迎えてくれる。



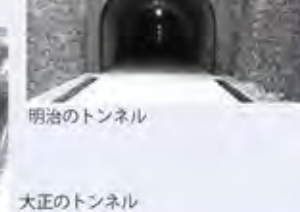
ちと小話

～4つのトンネル～

宇津ノ谷峠は、古くから難所とされており、峠越えの厳しい道を通りやすくするため、技術の進歩に伴って新たな道とトンネルが作られた。江戸時代まで、東海道を旅するには山道を越えるしかなかったが、明治になると旧東海道の通行を助けるために、日本初の有料トンネルが作られた。これが「明治のトンネル」で、レンガ造りのトンネルは国の登録有形文化財となっている。大正末期には、自動車時代の到来に対応して新たな道とトンネルが着工された。これが「大正のトンネル」だが、完成は昭和であったため「昭和初期のトンネル」ともいわれる。昭和に入るとさらに交通量は増加し、これに応じて現在の国道1号線に作られたのが「昭和のトンネル」。平成に入り、その横に増設されたのが「平成のトンネル」である。それぞれに時代を反映して異なった形状をしているので、見比べても面白い。



平成のトンネル（手前）・昭和のトンネル（奥）



明治のトンネル

大正のトンネル

「里のにぎわい」

魅力的なスポットの多い丸子・宇津ノ谷だが、地域をさらに盛り上げるイベントも活発だ。地元の力で、歴史ある地域に新たな魅力が日々生み出されている。

宇津ノ谷の町並み

宇津ノ谷地区を通過する旧東海道ハイキングルートに向かう街並みは、昔ながらの造りに屋号の看板が掛けられ歴史を感じさせる。実はこの街並みは、単に昔の建物をそのまま保存しているのではない。

峠越えの東海道がまだ使われていた頃、宇津ノ谷地区には茶屋が建ち並んでいた。しかし、やがて自動車が交通の主役となり、徒歩の旅人がいなくなると茶店も店仕舞いをし、かつての風景は失われていった。

転機が訪れたのは平成12年。地元の人たちが中心になって、美しいまちづくり協議会を結成すると、地元の設計事務所や静岡市と協働し、すっかり変わってしまった街並みにかつての趣きを取り戻させた。蘇った街並みは多くの来訪者の

目を楽しませ、平成17年には国土交通省都市景観大賞「美しいまちなみ賞」優秀賞を受賞している。



丸子宿場まつり「夏の陣/冬の陣」

毎年夏と冬の2回、旧道一帯に宿場の風景がよみがえる。道沿いの家々には屋号が染め抜かれたのれんがかかり、道の東西には関所が登場する。夏の陣では子供神輿や大掛りな山車が、冬の陣では時代劇や花魁道中が人々の目を楽しませる。夏の陣の始まりは10年前、規模が小さくなりつつあった稲荷神社の夏祭りを盛り上げようと、丸子在住の牧田さんが企画。徐々に活動は拡大し、5年前には牧田さんを会長として、宿場まつりを盛り上げる「丸子わいわい会議」が結成された。2年前には大御所400年祭に合わせ、日光江戸村と協働して冬の陣をスタートさせた。現在、祭の日には何千人ものお客さんが街道にあふれる。「この地区だけでなく、丸子全体の活性化につなげたい」と語る牧田さん。「丸子わいわい会議」の活動は宿場祭りだけでなく、地元の子どもたちとの交流や、他地区の祭りへの参加へと広がっている。



大鉦の朝市

普段はのどかな大鉦不動尊への参道が、毎月28日には朝市で大賑わいとなる。かつては地元の人たちだけで開いていた朝市だが、地元以外の方にも参加を働きかけた結果、今では平均で90軒もの出店が集まるようになった。農産物をはじめ、おでんやカレーなどの飲食物、手作り雑貨やアクセサリーなど実にさまざまな品物が並び、市外からも買い物客が訪れる。

参道を歩くと、地元の建物を利用した店が目を見く。3代前から朝市に参加しているという、通称「お線香屋さん」では民家の縁側に品物が並ぶ。名前通りのお線香に加え、手描きの絵馬が味わい深い。また、道沿いに店舗を構える「寿美花」は朝市が開催される日にだけ開かれるという一風変わった飲食店だ。他にも、農作業小屋を売り場にしたりした店なども点在し、朝市が大鉦の人たちの生活に深く入り込んでいることが窺える。



農作物や手作り工芸品など、様々な品物が所狭しと並べられている



縁側を売り場にしたり「お線香屋さん」

丸子の里 秋の芸術祭

平成20年10月、泉ヶ谷地区が、丸ごと芸術祭の会場になった。公民館や民家の軒先など8箇所を展示スペースとして開放したユニークな芸術祭には45人のアーティストが参加。開催期間中の来場者は5000人を上回った。

発案はギャラリー「小さな美術館 くにじ庵」を構える版画家の曾根さん。地域の新年会で、「のどかでいい所だから、街の人にもみてもらいたい」と提案してみたところ、その場で話が盛り上がり、実行にこぎつけたという。

もともと泉ヶ谷地区は団結力が強く、地域活性化にも意欲的。地区内のゴミ捨て場を、景観を乱さないようにと水車小屋や古民家のように造り替えたのも町内会だ。平成21年には第2回の芸術祭開催が決定している。さらに会場と出展数を拡大するとのことで、秋の丸子は賑やかさを増していきそうだ。



公民館や民家の軒先を展示スペースに、多様な作品が展示されている

長い歴史のある軟昌院にも、彫刻やオブジェなどが展示された



ちと小話

～小さな美術館 くにじ庵～

版画家の曾根邦治さんが、ゆったりとした空間で絵を楽しんでもらいたいとの思いから開設したギャラリー兼アトリエ。自然の勾配を利用したユニークな建物の中には、曾根さんの版画が壁一面に飾られている。版画のテーマは身近な丸子の風景から、世界中の町並みまで幅広い。また、活動は版画だけに留まらず、くにじ庵周辺の所々には、曾根さんの俳句が記された木の板がかけられている。みなさんも散策しながら探してみてもいい。



吐月峰前の木札。片面には芭蕉の句、もう片面には曾根さんの句が記されている



【開館時間】10時～19時（入場は18時30分まで）
 【休館日】月曜日（ただし、9月21日（祝）10月12日（祝）は休館）
 【入館料】一般800円（600円）／大高生・市内70歳以上500円（400円）／中学生以下無料
 ※（注）入館料は、入館時に提示する。入館料は、入館時に提示する。入館料は、入館時に提示する。
 【前売券】8月5日（木）より発売
 静岡アートギャラリー、チケットぴあ（コード688772）、
 江崎書店本店（貸版）、谷島屋本店（貸版）、戸田書店（貸版）
 戸田書店清水本店（貸版）

幕末 浮世絵展

大江戸の賑わい―北斎・広重・国貞・国芳らの世界―
 平成21年9月12日（土）～10月12日（日）
 中右コレクション 150点を一挙公開



静岡アートギャラリー

Shizuoka ART Gallery
 〒422-8067 静岡市駿河区東18-1 サウスポート静岡3階 TEL:054-269-5400 FAX:054-269-5410
 E-mail: info@art.shizuoka-city.or.jp URL: http://www.art.shizuoka-city.or.jp/
 JR静岡駅南口より徒歩1分 静岡市立美術館

丸子路は みどりと歴史のふるさと 憩の里

元祖 とろいど 丸子



〒421-0103 静岡市駿河区丸子7丁目10番10号
 電話：054-258-1066

平日のお昼は 友達とゆっくり ガーダーバイキング ¥1,200～
 土・日は家族で フルバイキング 大人：¥1,575 小学生：¥1,050
 満席合にぜひ！ 夏のバーベキュー ¥5,000 割引特典あり 清水区内送迎サービス
 午後はゆっくりと ティータイム デザート&ドリンクバー ¥750
 夜景を見ながら ロマンチックにティー 2人でシェアコース ¥4,200～etc

s.colina

JSTEP

TEL: 054-371-9034

清水ナショナルトレーニングセンター2F
 〒424-0105 静岡市清水区山切 1487-1
 URL: http://www.j-step.or.jp



編集後記 From Editor

- 丸子地区には多くのとろいど屋が存在します。それぞれ特徴があるので、自分好みのとろいどを探してみてください。
- 本当にのどかな地域で、歩いて回るだけでもリラックスできました。掲載した場所の他にも素敵な場所がたくさんあります。是非とも歩いて探してみてください。
- 今後も、皆様がお持ちの情報を元に取材したいと思います。ご意見・ご感想・情報をドンドンお寄せください。

参考文献

- 『海野幸正写真集 刻は流れて』 発行：羽衣出版

取材協力

- 牧田孝生
- 曾根邦治
- 鈴木輝久
- 入山幸治（写真提供）
- 海野幸正（写真提供）

静岡文化情報「街かど」第34号

- 発行（年2回）平成21年7月
- 編集・発行（財）静岡市文化振興財団 〒420-0031 静岡市中央区駿町二丁目1-1 札の辻ビル6階 TEL: 054-255-4746 FAX: 054-653-3501
- デザイン・印刷（株）静鉄アド・パートナーズ 〒420-0837 静岡市中央区日出町8-3（静鉄日出町ビル2F） TEL: 054-252-3132・3133 FAX: 054-254-1831
- 表紙キャラクター制作 川内ゆうじ／アトリエ サンゴ 〒424-0887 静岡市清水区谷田9-22 TEL・FAX: 054-345-6655

生活の中で生きてゆく、手造り家具。



大地に生まれ育って何十年、何百年と生き抜いた木達。
そんな木の自然をそのまま生かしたデザインにこだわり、
一点、一点丹精を込めて作るオリジナル家具。
手造りだからこそ使い込む程に味わいが増し、
何代も受け継がれる素晴らしい家具になります。
金鱗は皆様に木の温もりとゆとりの空間をお届けする
手造り家具のお店です。



2Pソファ Material: クリ



畳ベッド Material: クルミ



リビングチェア
ダイニングテーブル
Material: ナラ



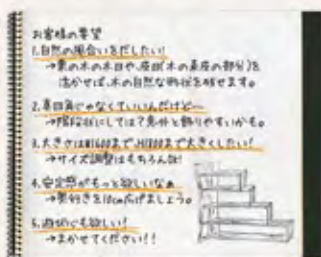
Aスタイルブックエンド
Aスタイルデスク
ワゴン
デコチェア
Material: クリ



MIROKUシリーズ
左: TEL台 Material: クリ
右: 飾り棚 Material: クルミ

オーダーメイド家具が生まれるまで

こんな棚が欲しい! だけど自分の家
や好みに合ったものになりたい...という
お客様の希望から話しが始まり...



お客様の希望を聞きながら、色・形・素材・雰囲気など
細かなディテールまで打ち合わせして決めます。



店舗裏にある工場で製作しているので、途
中経過の見学も可能。お客様と一緒に作り
上げられるのも、手造り家具の魅力です。



完成!!

原形からは大分変化したんですが、
木の皮目を使い、自然の風合いを活かしました。

造り手から使い手へ

手造り家具の金鱗

静岡県駿河区北丸子2丁目38-9 TEL.054-201-2511 FAX.054-259-6313
OPEN 10:00~18:00 ほぼ無休

